

「思考スキル」は、問題に取り組むことを通じて、みなさんに身につけてほしい力を表したものです。思考スキルは、特定の問題に限らず、さまざまな場面で活用することができる大切な力です。問題につまずいたときには、思考スキルに着目してみましょう。どのような切り口で問題と向き合えばよいのか、どのように考え進めればよいのか、…など、手がかりをとらえるのに役立ちます。問題に取り組むとき、活用してみましょう。

思考スキル

○情報^{じょうほう}を^{かくとく}獲得する

- ・問題文から情報や問題の条件を正しくとらえる
- ・図やグラフなどから情報を正しくとらえる

○再現する

- ・計算を正しく行う
- ・問題の指示通りの操作^{そうさ}を正しく行う

○調べる

- ・方針を立て、考えられる場合をもれや重複なく全て探し出す
- ・書き出すことを通じて、法則を発見する

○順序立てて変化^{へんか}をとらえる

- ・変化する状況を時系列で明らかにする
- ・複雑な状況^{そくざん}を要素ごとに筋道立てて明らかにする
- ・前問が後に続く問いの手がかりとなっていることを見ぬく

○特徴^{とくちょう}的な部分に注目する

- ・等しい部分に注目する
- ・変化しないものに注目する
- ・際立った部分（計算式の数、素数、約数、平方数、…など）に注目する
- ・和、差や倍数関係に注目する
- ・対称性^{たいしょうせい}に注目する
- ・規則や周期に注目する

○一般化する

- ・具体的な事例から、他の状況にもあてはまるような式を導き出す
- ・具体的な事例から、規則やきまりをとらえて活用する

○視点^{してん}を変える

- ・図形を別の視点で見える
- ・立体を平面的にとらえる
- ・多角的な視点で対象をとらえる

○特定の状況を仮定する

- ・極端^{きょくたん}な場合を想定して考える（もし全て○なら、もし○○がなければ、…など）
- ・不足^{おびた}を補ったり、余分を切りはなしたりして全体をとらえる
- ・複数のものが移動するとき、特定のもののだけを移動させて状況をとらえる
- ・具体的な数をあてはめて考える
- ・解答の範囲^{はんい}や大きさの見当をつける

思考スキル

○知識

- ・ 情報を手がかりとして、持っている知識を想起する
- ・ 想起した知識を正しく運用する

○理由

- ・ 筆者の意見や判断の根拠こんきょを示す
- ・ ある出来事の原因、結果となることを示す
- ・ 現象の背後はいごにあることを明らかにする

○置換ちかん

- ・ 問いを別の形で言い表す
- ・ 問題の状況じょうきょうを図表などに表す
- ・ 未知のものを自分が知っている形で表す
- ・ 具体的な数と比を自由に行き来する

○比較ひかく

- ・ 多角的な視点してんで複数のことがらを比べる
- ・ 複数のことがらの共通点を見つけ出す
- ・ 複数のことがらの差異さいを明確にする

○分類

- ・ 個々の要素によって、特定のまとまりに分ける
- ・ 共通点、相違点そういてんに着目して、情報を切り分けていく

○具体化

- ・ 文章から筆者の挙げる例、特定の状況や心情を取り出す
- ・ ある特徴とくちょうを持つものを示す

○抽象化ちゅうしやうか

- ・ 個々の事例から具体的な要素を除いて形式化する
- ・ 個々の事例から共通する要素を取り出してまとめる

○関係

- ・ 文章どうしのつながりをとらえる
- ・ 部分と全体のそれぞれが互たがいに与えあう影響えいに目を向ける
- ・ ある目的のための手段しゅだんとなることを見つけ出す

○推論すいろん

- ・ 情報をもとに、先の変化を予測する
- ・ 文章から、筆者の考えを論理的に導き出す

○類推

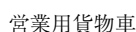
- ・ 情報を活用して、さらに別の情報を引き出す
- ・ 個々の共通点から、特定の事象を導き出す
- ・ 要素間の意味をとらえ、情報を補う

問10

43

問11

自家用自動車



自家用貨物車

年齢層 (Age Group)	人数 (Number of People) in 百万人 (Millions)
15-24	100
25-34	42
35-44	38

44

問12

私	は	、	近	い	場	所	は	徒	歩 ¹⁰	や	自	転	車	で	行	き	、	遠	く ²⁰
に	外	出	す	る	時	に	は	で	き ³⁰	る	だ	け	鉄	道	や	バ	ス	な	ど ⁴⁰
を	使	う	よ	う	に	し	た	い ⁵⁰	。	な	ぜ	な	ら	、	一	度	に	多	く ⁶⁰
の	人	を	輸	送	で	き	る	公	共 ⁷⁰	交	通	機	関	は	温	室	効	果	ガ ⁸⁰
ス	の	排	出	量	が	少	な	い ⁹⁰	た	め	、	効	果	的	に	温	室	効	果 ¹⁰⁰
ガ	ス	を	減	ら	す	こ	と	が ¹¹⁰	で	き	る	と	思	う	か	ら	だ	。	¹²⁰

45

計100点

【解 説】

交通機関と運輸の発達をテーマにした問題

問 1 B1 情報を獲得する 関係

A：資料2から、高速道路の長さは1970年は710km、2010年が7803kmとなっています。

$7803 \div 710 = 10.99 \dots$ より、エの「11(倍)」が正解です。

B：資料3から、自動車の保有台数の合計は1965年から2010年まで増加し続けています。したがって、キの「増加している」が正解です。

C：資料3の車種別の保有台数の割合を見ると、1965年から2000年の間ずっと減少し続けているのはバスのみです。乗用車は1980年から1990年の間をのぞいて増加し続けており、トラックは1980年から1990年の間が増加しています。したがって、ウの「バス」が正解です。

D：資料3から、2010年の保有台数は乗用車が58347.4、バスが227.3です(単位は千台)。
 $58347.4 \div 227.3 = 256.69 \dots$ より、サの「257(倍)」が正解です。

問 2 B1 情報を獲得する 関係 比較

資料6から正しく読み取れるものを選びます。日本地図の形と「時間を表すめもり」を参考に、かかる時間をとらえます。

ア：1965年と1985年を比べると、東京・新潟間、東京・仙台間の所要時間はどちらも短縮されています。よって、正しくありません。

イ：1985年には、東京・鹿児島間の所要時間は4時間をこえていますが、1995年でも4時間以内に行くことができません。よって、正しくありません。

ウ：1995年には、東京・名古屋間、東京・仙台間どちらも4時間以内に行くことができます。よって、正しいと言えます。

エ：2016年でも、東京からの所要時間が4時間を上回る場所があるため、全ての場所に4時間以内に行くことはできません。よって、正しくありません。

問 3 B2 情報を獲得する 比較 推論 具体化

「資料4と6」、「資料5と6」に分けてそれぞれから読み取れることを考えます。まず、資料4から、立て続けに新しく新幹線が開業されていることが読み取れます。それにもなって、資料6の各地域への所要時間が短くなっていることがわかります。このように、新幹線が新しく開業、または延長されたりすることで、移動にかかる時間が短縮されたと考えることができます。また、資料5から、東京—新大阪間の新幹線の最高速度が2016年は1965年の約1.4倍になり、所要時間は約4分の3に短縮されたことが読み取れます。資料6の1985年と2016年を比較してみると、たとえば、東京と福岡の間の所要時間は大きく短縮されていることがわかります。新幹線の最高速度が速くなったことも所要時間短縮の一因だと考えられます。

説明するときには、これらのことを盛りこんで書くとよいでしょう。

この問題では、①「新しい新幹線の開業や延長」に関する理由が書かれているかどうか、②「新幹線の速度」に関する理由が書かれているかどうか、③①②に過不足がなく、読み手が内容を補う必要がないかどうか、④表現や表記に誤りがないかどうかを中心にしています。

資料4、資料5から読み取れることを資料6の読み取りに活用しよう。



問4 B1 情報を獲得する 関係 比較

ア：航空機の旅客輸送量は2009年が75,203で、1970年は9,319です(単位は百万人キロ)。

$75203 \div 9319 = 8.06 \dots$ より、約8.1倍となるので正しいと言えます。

イ：船の旅客輸送量の割合は、1950年から2009年までは減少し続けていますが、船の旅客輸送量は、1990年から2009年にかけて減少しているため、増加し続けているとは言えません。よって、正しくありません。

ウ：自動車の旅客輸送量の割合は1970年には48.4%でしたが1990年には65.7%となりました。一方、鉄道の割合は1970年には49.2%でしたが1990年には29.8%となっています。よって、1970年から1990年の間に自動車の割合が鉄道をこえたと考えられるので正しいと言えます。

エ：旅客輸送量の合計は、1950年には117,096でしたが2009年には1,369,111となっています。 $1369111 \div 117096 = 11.69 \dots$ より、約11.7倍となるので正しいと言えます。

オ：1990年の鉄道の輸送量は387,478で1970年の288,815と比べると約34%増加しています。一方、自動車は1990年が853,060で1970年の284,229と比べると約200%の増加となっているので正しくありません。資料8の旅客輸送量の割合と混同しないようにしましょう。

問5 B2 関係 比較 推論 具体化

資料10の1950年から2009年までの、自動車と鉄道の割合の変化に注目します。自動車は8.7%、38.8%、50.2%、63.9%と増加し続けていることが、一方、鉄道は50.3%、18.0%、5.0%、3.9%と減少し続けていることがわかります。

この問題では、①自動車の貨物輸送量と鉄道の貨物輸送量の割合の変化について正しく書かれているかどうか、②①に過不足がなく、読み手が内容を補う必要がないかどうか、③表現や表記に誤りがないかどうかを中心にしています。

問6 A2 情報を獲得する 再現する

資料11の「温暖化係数」に着目して計算をします。

㊦ 二酸化炭素を1とすると、一酸化二窒素は298です。よって、 $298 \div 1 = 298$ 倍です。

① メタンを1とすると、二酸化炭素は $1 \div 25 = 0.04$ 倍です。

㊦ ①と同様に、メタンを1とすると、一酸化二窒素は $298 \div 25 = 11.92$ 倍です。

問7 B1 情報を獲得する 比較 推論 具体化

資料11の「世界の温室効果ガスの発生割合」と「大気に残る期間」に着目します。メタンや一酸化二窒素に比べて、二酸化炭素は「発生割合」に示める割合が76%と高く、また、大気に残る期間が1,000年と長いことがわかります。よって、他の気体に比べて影響が大きいことが、理由として考えられます。

この問題では、①資料11からわかる理由が正しく書かれているかどうか、②①に過不足がなく、読み手が内容を補う必要がないかどうか、③表現や表記に誤りがないかどうかを中心にしています。

問8 B1 情報を獲得する 比較 推論

夏になると植物の葉がしげり、二酸化炭素を吸収する光合成がさかんになります。そのため、光合成による二酸化炭素の吸収が、呼吸による二酸化炭素の放出を上回ります。しかし、夏を過ぎると、多くの植物は葉を落とします。そのため、呼吸による二酸化炭素の放出が、光合成による二酸化炭素の吸収を上回ります。このことから、二酸化炭素の濃度は夏には低く、冬には高くなると考えられます。

問9 ① B1 情報を獲得する 比較

資料13に着目すると、スギは、樹齢が0～20年の炭素吸収量が最も多いことがわかります。短期間で光合成をさかんに行う木の方が、成長が早いので、建築用の木材にふさわしいと言えます。よって、㊦にあてはまるのはスギです。

② B1 情報を獲得する 比較 推論

①より、㊦は「スギ」です。資料13に着目すると、スギの炭素吸収量は0～20年の間に大きく増え、その後、40年までゆるやかに減っていき、その後はさらに減り方が大きくなっていることがわかります。炭素吸収量が多いほど光合成がさかんで成長も早くなるため、先にできる年輪の中心に近い部分は、はばが広く、年輪の中心からはなれるとはばがせまくなります。よって、もっともふさわしいと考えられる年輪は「あ」です。

③ A2 情報を獲得する 再現する

資料14の「樹齢50年の㊦(スギ)」は、1年間で1本あたりおよそ14kgの二酸化炭素を吸収する」ことに着目します。

㊥ $320 \div 14 = 22.8 \dots$ より、23本です。

㊦ $2300 \div 14 = 164.2 \dots$ より、164本です。

㊧ $6500 \div 14 = 464.2 \dots$ より、464本です。

問10 B2 関係 比較 推論 具体化

問題の下線部分「北半球は陸地がおよそ40%、南半球は陸地がおよそ20%（をしめている）」
「北半球の方が南半球より陸地が多い」点に着目して考えます。

南半球は北半球に比べて陸地が少ないため、植物の数も少なく、植物の光合成の影響が小さいと考えられます。そのため、年間を通して、北半球より南半球の方が、二酸化炭素の濃度変化のはばが小さいと言えます。

この問題では、①下線③、④に関連した理由が正しく書かれているか、②①に過不足がなく、読み手が内容を補う必要がないかどうか、③表現や表記に誤りがないかどうかを中心にしています。

北半球より南半球の方が陸地が少ないってことは…



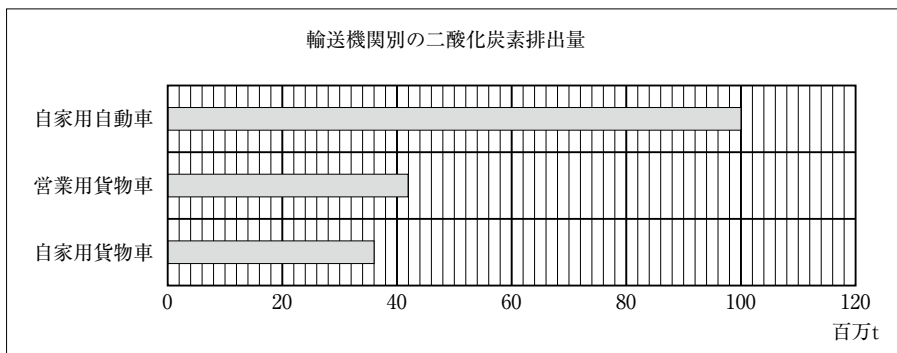
問11 B1 情報を獲得する 再現する 置換

資料15から、運輸部門全体の二酸化炭素排出量は12億600万 $\times 0.179 = 2$ 億1587.4万(t)より、約21600万(t)となります。この値と資料16を利用して、営業用貨物車、自家用貨物車の排出量を計算すると次のようになります。

営業用貨物車：21600万×0.196＝4233.6万(t)→百万t未満を四捨五入すると約4200万t

自家用貨物車：21600万×0.168＝3628.8万(t)→百万t未満を四捨五入すると約3600万t

グラフの目もりは百万t単位ですから、営業用貨物車は42、自家用貨物車は36の位置になるようにそれぞれ棒グラフを作成します。



輸送機関別の二酸化炭素排出量

問12 **C1** **関係** **比較** **類推** **具体化**

温室効果ガスの排出を減らすために自分ができることや周りの人とできることを考えて、自分の意見を書く問題です。国や会社などが行うことに比べると個人ができることは限られますが、たとえば、出かけるときにはなるべく公共交通機関を利用するようにするなど、身近に取り組むことができるものもあります。自分の考えを理由とともに文章にまとめましょう。

この問題では、①温室効果ガスの排出を減らすために自分や周りですることが書かれているか、②①が効果的である理由が書かれているか、③①②に過不足がなく、読み手が内容を補う必要がないかどうか、④表現や表記に誤りがないかどうかを中心に見ています。

いろいろな工夫が考えられるね。他にどんなことが考えられるかな？



小学6年 適性検査B — 解答と解説

1

問 1			問 2		問 3		
㊦	5	㊥	8	㊧	5	㊨	1
21			22	23	24	25	

2

あ	い	う	え	お							
14	8	2	4	3							
26		27		28	29		30				
か	き	く	け	こ	さ						
5	2	3	1	2	15						
31		32		33		34		35		36	

【例】	し
4でわり切れる数	

3

問 1	【例】	問 2
5 cm	イ 6 cm	ウ 8 cm
38	39 (完答)	

4

問 1
b

【例】	問 2
磁石とのきよりが近ければ近いほど、物を引きつける力が大きくなるという性質がある。	

[illegible]

問 4

【例】 Y	か	の	鉄	球	A	よ	り	引	き	つ	け	ら	れ	る	力
	が	小	さ	く	な	る									
Z	イ														43

44

問5				問6		問7	
①	ウ	②	左	右	イ	⑤	
45				46		47	
						48	

【例】	問 8	
(1つ目)	棒イ、棒ウの両方とも鉄だったから。	49
(2つ目)	棒イ、棒ウの両方とも磁石で、同じ極どうしをくっつけたから。	

問 9			
(1)	い、き	(2)	④

51 (完答) 52

①問1、②あ～お、④問1、問5……各2点
①問2、②か～さ、④問4Z、問6、問7……各3点
①問3、②し、③、④問3、問8、問9……各4点
④問2、問4Y……各5点
計100点

①問2、②か～さ、④問4Z、問6、問7……各3点

①問3、②し、③、④問3、問8、問9……各4点

④問2、問4Y……各5点

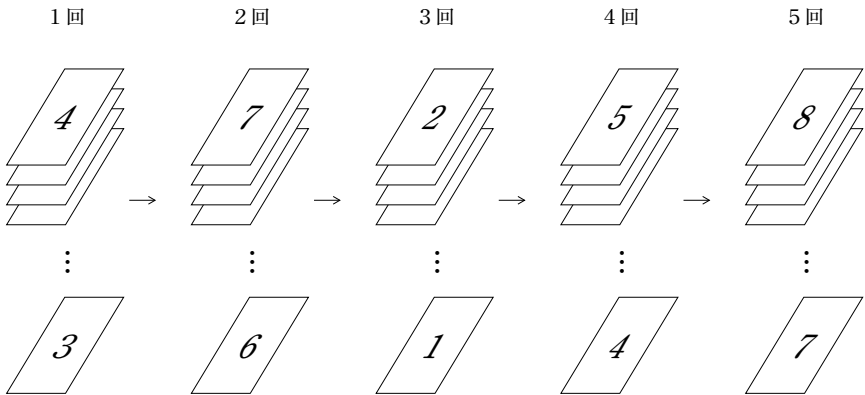
計100点

【解 説】

① 規則をとらえる問題

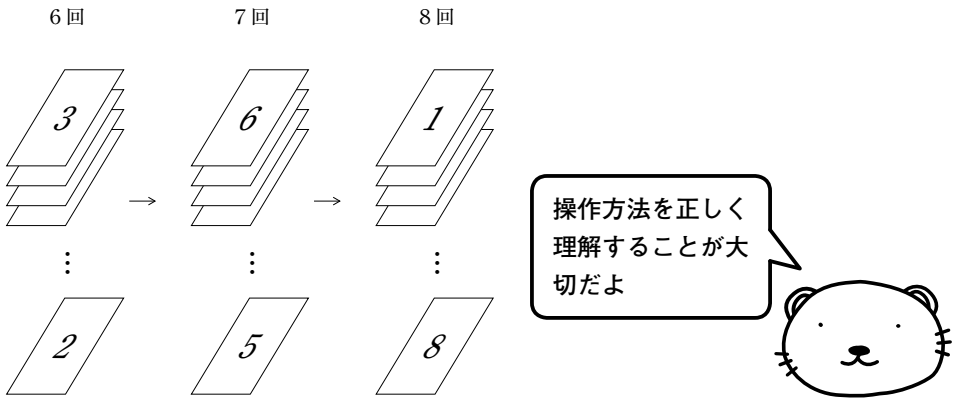
問 1 A2 情報を獲得する 再現する

「はじめ」から5回の操作^{そうま}をすると、次のようになります。よって、4回の操作をすると一番上に見えるカードの数は5、5回の操作をすると一番上に見えるカードの数は8です。



問 2 A2 情報を獲得する 再現する

問 1 で5回の操作をしています。その後も操作を続けて調べると、次のようになります。よって、「はじめ」から8回の操作をすると、初めて「はじめ」のカードの順にもどります。



(他の考え方)

問題の図より、「はじめ」から3回目までで「 $1 \rightarrow 4 \rightarrow 7 \rightarrow 2 (=7+3-8)$ 」と、3ずつ大きくなっていることがわかります。

同じように考えると、 $2+3=5$ 、 $5+3=8$ より、5回の操作をすると一番上に見えるカードの数は8になります。さらに、6回目から順に、 $8+3-8=3$ 、 $3+3=6$ 、 $6+3-8=1$ となります。よって、初めて「はじめ」のカードの順にもどるのは、8回目とわかります。

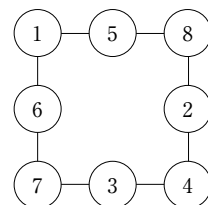
問3 B1 調べる 一般化する

- ㊦ 問2より、「はじめ」から8回の操作をすると、「はじめ」のカードの順にもどります。
 このとき、一番上に見えるカードの数は、「4 → 7 → 2 → 5 → 8 → 3 → 6 → 1」と変化しています。つまり、8回の操作を1周期とすると、 $100 \div 8 = 12$ あまり4より、「はじめ」から100回の操作をすることは、12周期と4回の操作することと同じになります。
 よって、一番上に見えるカードの数は、「はじめ」から4回の操作をするときと同じになるので、一番上に見えるカードの数は5とわかります。
- ㊧ ㊦と同じように考えます。 $400 \div 8 = 50$ より、50周期の操作をすることになります。
 このとき、「はじめ」のカードの順にもどっていることになるので、1とわかります。

2 考えられる場合を調査する問題

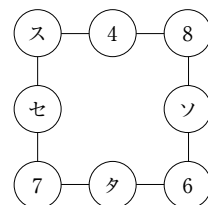
あ～お B1 情報を獲得する 再現する

3つの数の合計は $1+6+7=14$ です。このとき、㊦に入る数は $14-1-5=8$ です。後は残りの2、3、4を合計が14になるように配置します。すると、㊢=2、㊣=4、㊤=3となります。
 このとき、完成した図3は右のようになります。

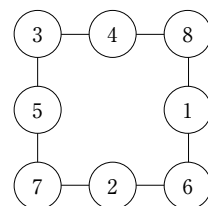


か～さ B1 情報を獲得する 再現する 特徴的な部分に注目する

会話中の $12=㊥+7$ に注目すると、㊥= $12-7=5$ とわかります。
 次に会話中の $㊦+12=㊧+14$ に注目すると、㊦は㊧より $14-12=2$ 大きいことがわかります。このとき、残った3個の数は1、2、3です。㊦は㊧より2大きいので、㊦=3、㊧=1となり、㊨=2と決まります。



以上のことから、縦、横それぞれにならんだ3個の数の合計は $3+4+8=3+5+7=8+1+6=7+2+6=15$ となります。



完成した図4は右のようになります。

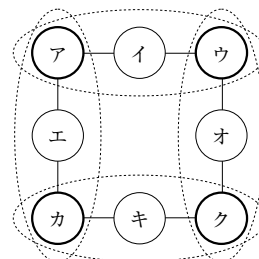
し B2 特徴的な部分に注目する 視点を変える

点線で囲んだ全ての数の合計は、

$$\begin{aligned} & (\text{ア}+\text{イ}+\text{ウ})+(\text{ア}+\text{エ}+\text{カ})+(\text{ウ}+\text{オ}+\text{ク})+(\text{カ}+\text{キ}+\text{ク}) \\ &= (\text{ア}+\text{イ}+\text{ウ}+\text{エ}+\text{オ}+\text{カ}+\text{キ}+\text{ク})+(\text{ア}+\text{ウ}+\text{カ}+\text{ク}) \\ & \text{となります。} \end{aligned}$$

1～8の8つの数の合計は36ですから、点線で囲んだ全ての数の合計は、 $36+(\text{ア}+\text{ウ}+\text{カ}+\text{ク})$ となります。

点線の囲みは4つあり、それぞれ囲んだ3つの数の合計は同じなので、 $36+(\text{ア}+\text{ウ}+\text{カ}+\text{ク})$ は4でわりきれ数です。



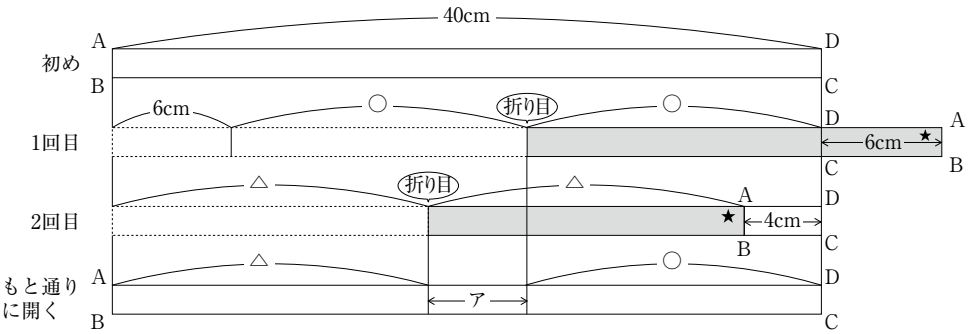
36は4でわり切れるので、ア、ウ、カ、クをたし算した答えも、4でわり切れる数になります。この問題では、①正しい内容が書かれているかどうか、②①に過不足がなく、表現や表記に誤りが^{あやま}りがないかどうかを中心にしています。

③ 図形を推論して整理する問題

長方形の横の長さを自分で決めると、考えやすいでしょう。ここでは、問1、問2どちらも横の長さを40cmと仮定して考えます。

問1 B1 情報を獲得する 置換

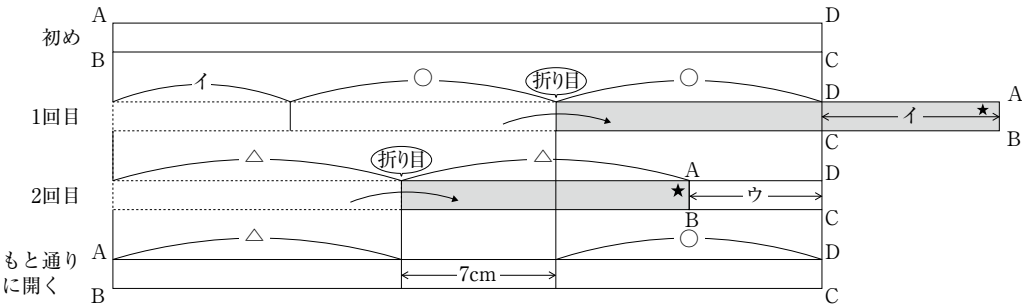
次の図のように、紙をもと通りに開いたとき、同じ長さになる部分に同じ印をつけます。



$40 - 6 = 34(\text{cm})$ ……○ 2 つ分の長さ $34 \div 2 = 17(\text{cm})$ ……○ 1 つ分の長さ
 $40 - 4 = 36(\text{cm})$ ……△ 2 つ分の長さ $36 \div 2 = 18(\text{cm})$ ……△ 1 つ分の長さ
よって、アの長さは、 $40 - (17 + 18) = 5(\text{cm})$ です。

問2 B2 情報を獲得する 特定の状況を仮定する 置換

問1と同じように考えます。



ここでは、イを6cmとすると、○ 1 つ分の長さは17cmです。
すると、 $6 + 17 - \triangle = 7$ より、 $23 - \triangle = 7$ 、 $\triangle = 23 - 7 = 16$ です。
よって、△ 2 つ分の長さは $16 \times 2 = 32(\text{cm})$ より、ウの長さは $40 - 32 = 8(\text{cm})$ となります。
問題の条件から、長方形ABCDの横の長さは7cmより長く、イの長さは長方形ABCDの横

の長さより短くなります。この点をふまえて、長方形ABCDの横の長さ、イの長さを仮定します。このとき、イとウの長さの合計は必ず14cmとなります。そのため、正しい解答となるものは、イとウの長さの合計が14cmであるもの全てです。

イとウの長さの合計が
必ず14cmになるなん
て、おもしろいね。



④ 磁石に関する問題

問 1 B1 情報を獲得する 理由

N極とS極が引き合うので、北極にS極があり、それと方位磁針^{じしん}のN極が引き合っていることになります。よって、アにS、イにNが入ります。

問2 B2 比較 抽象化

会話文に「**あの**ときに最も大きな力が必要で、次に**い**、次に**う**で、**え**が最も小さな力ですむ」とあります。鉄球を引きはなす位置について、ネオジム磁石とのきょりが近いほど、引きつける力は大きく、反対にネオジム磁石とのきょりが遠いほど、引きつける力は小さくなるのがわかります。このことを指定語を使ってまとめます。この問題では、①正しい内容が書かれているかどうか、②指定された語句が使われているかどうか、③①に過不足がなく、表現や表記に誤りがないかどうかを中心に見ています。

問3 B1 理由

かでは、鉄球Aがネオジム磁石に近づくと、磁力により鉄球Aは引きつけられます。そのため、鉄球Aは加速してネオジム磁石にぶつかることが考えられ、**およりか**の鉄球Bの方が勢いよく移動すると予想できます。この問題では、①正しい内容が書かれているかどうか、②①に過不足がなく、表現や表記に誤りがないかどうかを中心にしています。

問 4 B2 理由 比較

かと比べると、きはぶつかるときに鉄球Aとネオジム磁石の間に鉄球1個分のきよりがあります。問2で考えたように、磁石とのきよりが大きくなると引きつける力は小さくなるため、きの鉄球Aはかの鉄球Aほど加速しないことが考えられます。したがって、きの鉄球Bはかの鉄球Bよりおそく移動すると考えられます。この問題のYでは、①正しい内容が書かれているかどうか、②①に過不足がなく、文章の整合性に誤りがないかどうか、③表現や表記に誤りがないかどうかを中心にしています。

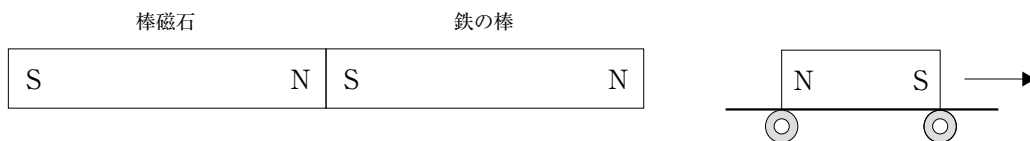
問5 B1 情報を獲得する 理由

① 「台車が動いた」ことから、置いた棒^{ぼう}の素材は磁石の性質を持つものとわかります。鉄は、磁石がくっつくとき自らも磁石としての性質を持つようになるため、鉄とわかります。

② 鉄の棒のN極と台車の棒磁石のN極が反発し合うので、台車は右に動きます。このと

適性検査B—解答と解説

き、鉄の棒は、左側の棒磁石のN極に近い側がS極となり、台車に近い側はN極となります。



問6 B1 情報を獲得する 理由

問5の鉄の棒と同じように、棒磁石にくっつけたクリップは磁石としての性質を持ちます。このクリップにくっつけた他のクリップも磁石としての性質を持ちます。その結果、クリップは3本とも棒磁石のN極に近い側がS極、その反対側がN極となります。

問7 B1 情報を獲得する 比較

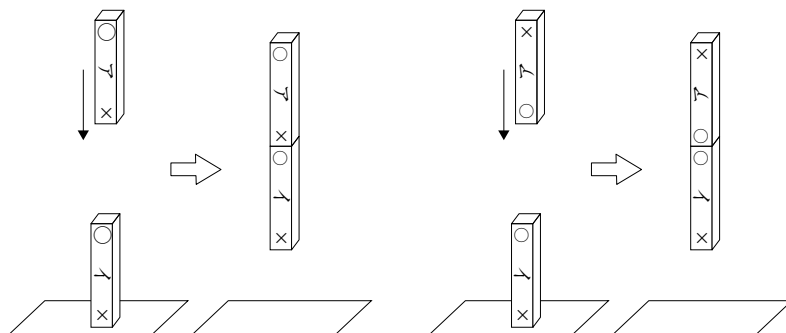
棒ア、イともに鉄の棒ならば、図10、図11のようにたがいにくっつくことはありません。また、棒ア、イともに磁石ならば、イの○にアの○と×の両方ともくっつくことはありません。したがって、ア、イのどちらか一方が磁石で、もう一方が鉄であることはわかります。しかし、この実験だけではア、イのどちらが磁石であるか判断することはできません。

問8 B1 理由 比較

棒イ、ウのどちらか一方が鉄でもう一方が磁石であればくっつくはずですが、したがって、イとウはどちらも鉄であるためくっつかないか、または、どちらも磁石でたがいに反発する同じ極を近づけているためくっつかないかのいずれかであることがわかります。この問題では、それぞれ①正しい内容が書かれているかどうか、②①に過不足がなく、表現や表記に誤りがないかどうかを中心に見ています。

問9 B2 調べる 比較 抽象化

- (1) 図10、図11から、棒ア、イのどちらか一方が磁石でもう一方が鉄であることがわかります。また、図12から、イとウはどちらも鉄であるか、どちらも磁石(イの○とウの×は同じ極)であることがわかります。
- これらを整理すると、アが鉄ならばイ、ウは磁石で、アが磁石ならばイ、ウは鉄ということになります。よって、い、きとなります。



- (2) (1)から、ア、ウのどちらか一方が磁石、もう

一方が鉄であるとわかります。このとき、①、

②は必ずくっついてしまいます。また③は☒10

と同じ実験をしているので、これも必ずくっつ

きます。④の場合、イとウがどちらも磁石なら

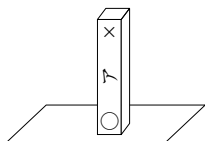
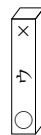
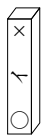
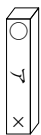
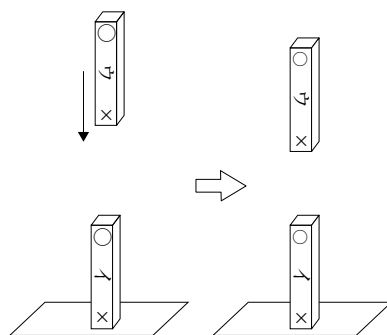
ばイの○とウの○はちがう極なのでくつつき、

どちらも鉄の棒ならばくっつかないので、イと

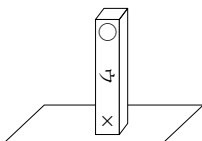
ウが磁石なのか鉄なのかを判別することができ

ます。イとウが磁石と鉄のどちらなのかがわかれば、アとイ(ウ)はどちらか一方が磁石、

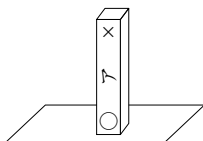
もう一方が鉄なので、アについても判別することができます。



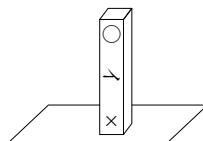
くっつく



くっつく



くっつく



どちらも磁石ならくっつく
どちらも鉄ならくっつかない

どんな実験だと棒の素材がハッキリするかな？問9 (1)をふまえて、(2)の①～④をそれぞれ調べよう。



適性検査C

解答と解説

1

問四										【例】	
を	を	い	だ	こ		知	い	き		学	校
自	続	こ	っ	と	宇	の	も	た		校	の
分	け	と	た	だ	宙	こ	の	。また、		理	科
の	る	で	。私	と	に	と	だ	実験		の	学
力	こ	い	は、	知	関	を	と	を通		習	で、
で	と	つ	勉	っ	す	自	感	じて		私	は
知	で	か	強	。そ	る	分	じ	自然		多	く
る	進	は	を	れ	本	の	。科	がと		の	知
こ	歩	理	続	が	を	目	学	ても		識	を
と	し	解	け	な	読	で	の	不思議		得	る
が	て	で	て	ぜ	ん	確	学	興		こ	と
で	き	き	い	わ	だ	か	習	味		が	で
きた	の	る	く	か	時、	め	を	深			
のだ	だ	思	こ	っ	宇	い	続				
とと思	と思	っ	と	た	宙	き	け				
う。	う。	い	で、	の	の	たい	る				
知り	知り	る。	今	か	始		こ				
たい	たい	人	は	と	まり		と				
こと	こと	は	わ	も	が		で、				
		勉	か	不	遠		未				
		強	ら	思	い						
		な	な	議	昔						
					の						

問一	は	め	現	代	で	は	勉	終	わ	り	る	の	で	す	。
問二	ア		○		イ		×		ウ		○		エ		×

問三	Ⅱ【例】	Ⅰ	人	が	何	か	未	知	の	も	の	に	触	れ	ら	れ	て	し	ま	う	こ	と					
----	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--

2

問二														【例】	問一 【例】			
認	立	な	え		分	く	と	相		そ	に	な			者	っ	ビ	電
め	場	か	を	学	の	聞	え	手	ぼ	の	逆	く	道		が	て	ー	車
て	に	か	持	校	意	い	ば	の	は	と	の	、	徳		、	、	カ	内
く	立	か	つ	は	見	上	、	立	、	を	と	状	は		他	や	ー	の
れ	っ	ま	人	、	も	上	学	場	学	忘	ら	き	時		の	む	を	せ
る	て	と	も	自	正	で	級	に	校	れ	え	よ	代		乗	を	な	ま
意	考	ま	い	分	し	、	の	立	生	て	ら	う	や		客	得	ら	い
見	え	ら	る	と	く	相	ル	っ	活	は	方	や	社		に	な	べ	と
を	出	い	の	似	伝	手	ー	も	で	な	を	視	会		申	い	て	こ
出	す	こ	、	た	わ	の	ル	の	他	ら	さ	点	に		し	事	お	ろ
こ	と	こ	も	考	る	身	を	ご	の	な	れ	、	よ		わ	情	し	に
と	で	と	の	え	よう	にな	決	と	人	い	る	人	つ		け	で	や	べ
も	き	あ	ご	持	に	つ	め	を	と	と	ほ	よ	変		な	べ	べ	ビ
で	れ	る	と	つ	話	て	る	考	関	筆	ど	つ	わ		い	ビ	リ	ー
き	ば	。そ	を	人	す	考	に	え	わ	者	あ	て	っ		と	ー	を	カ
る	、	ん	決	も	工	え	、	る	上	は	い	も	て		い	カ	し	ー
と	多	な	め	い	夫	た	他	よう	で	考	ま	同	い		う	ー	た	を
思	く	時	る	れ	を	。そ	の	に	、	え	い	じ	く		思	を	り	お
う	の	に	場	ば	し	。そ	人	し	で	て	な	こ	。そ		い	使	す	し
か	人	、	合	こ	た	し	の	意	い	い	も	と	れ		を	っ	る	こ
ら	が		に	事	い	て	意	見	る	。で	あ	が	だ		す	て	利	ん
だ	納	相	意	なる	。考	、自	を	よ	だ		ある	道	け		る	い	用	だ
。	得	手	見					た	け			徳			。利	る	に	、
	し、	の	が									的	で		用	よ	べ	

350

300

200

100

25

100

25

(配点)

- ① (問一) 6点
(問二) 各1点×4
(問三) I 6点、II 8点
(問四) 26点

② (問一) 14点
(問二) 36点
- 計100点

【解説】

1

問一 B1 理由 関係 具体化

文章Aの——線部①の後に、生き続けることが苦しくなる理由が書かれています。その中で、お金、仕事の二つの面での理由が説明されているのは、「現代では勉強を積み重ねてく仕組みになっているのです。」という一文です。

問二 A2 理由 置換

文章Bの——線部②のすぐ後に、「必ずしも覚えることが学ぶこととはかぎらない」ことの理由が書かれています。その部分を読みながらア～エの文の内容を検討します。アは「学ぶことそのことはそうしたあとからくつついてくるものとは別ものかもしれないから」という部分の言い換えにあたるので「○」です。イは覚えるための工夫について本文ではふれられていないため「×」です。ウは「覚えることは学ぶことの結果ではあっても」という部分とほぼ同じことを言っているので「○」です。エは、覚えることは学ぶことのアとについてくるという内容に合わないので「×」です。

問三 B2 理由 置換 比較 具体化

I については**文章A**の最後の段落に、人が勉強する、生きるため以外の理由について書かれています。人がものごとを知りたいと思うことは、学者が「知ること自体が大きい喜びだから」と考えることと同じだ、と述べているのです。字数を手がかりにして探してみるといいでしょう。

II については**文章B**の四～五段落目に学ぶことにつ

いて書かれています。が、まとめられているのは「このように、学ぶことは何か未知のもの、得体の知れないものに君が接してしまうこと、いや正確にはそれに触れられてしまうことなんだ。」という部分です。問いに十五字以上二十五字以内という指定があるので、重複する言葉や、言い換えている部分を削り、必要な部分だけをまとめるようにします。

※ **II** は以下のポイントを中心に見ます。

- ① 学ぶことがどういことなのかの説明されているか
- ② ①に過不足がないか
- ③ 表記や表現が正しいか

問四 C1 知識 理由 比較 類推 具体化

文章Aと**文章B**を読んで、自分は何のために勉強するのか、ということについて意見を記述する問題です。**文章A**と**文章B**に書かれていることを参考にしながら考えを組み立ててもかまいませんし、自分自身が考えることを書いてもかまいません。

自分が勉強する目的や夢があれば、それについて考えをまとめていくと書きやすいでしょう。また、宇宙についても知りたい、などの個人的な興味をもとにして書くこともできそうです。

書き始める前に、条件がすべて入っているかどうかを確認したり、書くべきことを短く箇条書きにして、それをもとにして書いたりするなどの工夫をしておくとな書きやすくなります。

※以下のポイントを中心に見ます。

第一段落について

- ① A 何のために勉強をしたかが書かれているか
① B 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか
① C 誤字・脱字・送り仮名、仮名遣いの誤りがないか
第二段落について
② A 第一段落で述べた意見の理由が書かれているか
② B 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか
② C 誤字・脱字・送り仮名、仮名遣いの誤りがないか
全体について
③ 段落が問題の指示に従って分けられているか
④ 答案用紙の使い方が正しいか
⑤ 字数制限が守られているか

理由を書く前に、問題に示されている
条件やきまりを確認しよう。



問2

B2 置換 比較 関係 具体化

——線部より前に「周りへの、他人への配慮が欠けた一部の人のふるまい」について書かれています。わずかな隙間にベビーカーを押し込んだり、入り口をふさいでいても平気でおしゃべりしたりする人を「他人への配慮が欠けた一部の人」と表現しています。また、「必要としているママやパパたち」とは、他人への配慮が欠けた人とは反対に、「やむを得ない事情でベビーカーを使っているママ、パパ」と表現されています。その人たちは、配慮が欠けた一部の人によって「肩身の狭い思いをしたり」と表現されていますが、ここには慣用句（習慣としてよく使われる言い回し）が用いられています。「肩身が狭い」には周囲に申しわけないと思う、という意味があるので、これらのことをまとめて、八十字以上百字以内という字数に合わせ書くようにします。

※以下のポイントを中心にみます。

- ① どのような行動をする人によって、どのような人がどのような思いをするかについて書かれているか
- ② ①に過不足がないか
- ③ 表記や表現が正しいか

問2

C2 知識 理由 比較 類推 具体化

筆者は、満員電車でベビーカーをたたまずに乗車する例を通じて、道徳についてどのようなことが言えるかという考えを述べています。筆者の考えをまとめた上で、あなたがこれからの学校生活で他の人と関わるときに、どのようなことを心がけたかという考えを理由とともに書きます。

第一段落に筆者の考えをまとめます。文章の最後の部分に筆者の考えがまとめられています。「道徳は時代や社会によっても変わっていくものだ」という部分や、「この事実をボクたち大人が、しっかりと心にとめておく必要がある」などの部分を利用してまとめるとよいでしょう。

第二段落には、これからの学校生活で他の人と関わるときに、どのようなことを心がけたいか、あなたの意見をまとめます。文章に書かれた内容を利用しながら自分の意見を組み立てる方法、自分で考えた内容をまとめる方法のいずれでもかまいません。できるだけわかりやすく自分の意見を書くようにしましょう。

第三段落には、第二段落で書いた意見の理由をまとめます。そのような意見になるのはなぜなのか、自分の言葉で説明するようにしましょう。

※以下のポイントを中心にみます。

第一段落について

- ① A 「満員電車でベビーカー」の話から道徳についてどのようなことが言えるか、筆者の考えが書かれているか
- ① B 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか

① C 誤字・脱字・送り仮名、仮名遣いの誤りがないか
第二段落について

- ② A これからの学校生活で他の人と関わるときに、心がけたいことについて、自分の意見が書かれているか
- ② B 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか

② C 誤字・脱字・送り仮名、仮名遣いの誤りがないか

第三段落について

③ A 第二段落で述べた意見の理由が書かれているか

③ B 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか

③ C 誤字・脱字・送り仮名、仮名遣いの誤りがないか全体について

④ 段落が問題の指示に従って分けられているか

⑤ 答案用紙の使い方が正しいか

⑥ 字数制限が守られているか

解答用紙に書く前に文章の構成、伝えたいことなどポイントとなることを確認しておこう。



小学六年
適性検査D
——
解答と解説

1

問一 はじめ現代では勉強終わりのです。

問二 ア ○ イ × ウ ○ エ ×

問三
Ⅱ例Ⅰ 知ることを自分で、私は多くの知識を得ることが
人が何か未知のものに触れられてしまふこと

問四 【例】
学校の理科の学習で、私は多くの知識を得ることが
きた。また、実験を通じて自然がとも不思議で興味深
いものだと感じている。科学の学習を続けることで、未
知のことを自分の目で確かめていきたい。
宇宙に関する本を読んだ時、宇宙の始まりが遠い昔の
ことだと知った。私は、勉強を続けていくことで、今はわ
かんな
だ。私も勉強を続けていくことで、今はわからな
いことでもいつかは理解できると思っている。人は勉強
を続けることで進歩してきたのだと思う。知りたいこと
を自分の力で知ることができたのだとも楽しいと思う。

250 200 100 25

2

問二																	【例】		問一				【例】			
関	人	と	を	こ	も	場		間	積	こ	ラ		を	て	な	た		の	口	す	想					
係	の	述	を	な	い	所	学	関	極	れ	ス	わ	持	考	い	こ	筆	動	に	る	優	力				
が	意	べ	く	る	れ	な	校	係	的	か	で	た	つ	え	と	と	者	力	な	優	し	は				
保	見	る	聞	人	ば	の	と	を	に	の	も	し	よ	る	い	が	は	源	た	さ	を	相				
た	尊	こ	き	が	こ	だ	は	つ	会	学	と	は	う	こ	と	必	、	に	り	を	生	手				
れ	重	と	、	お	と	思	多	っ	話	校	ん	親	努	と	と	ず	国	な	、	み	心					
る	す	が	受	た	な	う	様	て	を	生	ど	し	力	を	ろ	し	語	未	知	す	配					
だ	る	大	け	が	意	。そ	な	い	し	活	話	友	す	と	、	正	教	の	の	の	す					
ろ	人	切	止	を	見	こ	個	き	、	で	し	人	こ	に	思	じ	科	だ	世	も	と					
う	が	だ	め	理	持	て	性	た	お	他	た	と	に	い	だ	で	と	筆	界	に	優					
と	増	思	え	解	つ	は	持	い	が	の	こ	か	意	や	と	い	道	と	や	知	な	し				
思	え	う	で	す	人	自	つ		を	人	が	り	味	や	考	、	徳	は	考	を	た	や				
う	ら	。会	、	る	も	分	人		理	い	な	い	が	あ	え	、	は	え	探	り	手					
か	ば	話	自	た	い	同	協		解	関	い	話	る	と	い	意	考	究	し	大	き					
ら	、	を	の	は	だ	じ	調		合	係	保	す	一	言	。だ	考	考	い	吸	な	の					
だ	き	す	意	、	ろ	意	し		え	を	つ	。わ	方	っ	か	味	え	る	収	す	夢					
	つ	と	見	相	う	見	て		る	保	た	で	て	い	から	で	思	か	る	。学						
	と	と	も	手	。意	持	生		な	う	し	同	入	れ	と	正	い	。学								
	り	に	は	の	見	つ	活			人	は	じ	心		い	解	や	び								
	い	、	っ	意	の	人	す								は	つ										
	人	他	き	見																						
	間	の	り																							

450

400

300

200

100

25

100

25

(配点)
① 〔問一〕 6点
〔問二〕 各1点×4
〔問三〕 I 6点、II 8点
〔問四〕 26点
② 〔問一〕 14点
〔問二〕 36点
計100点

【解説】

1

問一 B1 理由 関係 具体化

文章Aの——線部①の後に、生き続けることが苦しくなる理由が書かれています。その中で、お金、仕事の二つの面での理由が説明されているのは、「現代では勉強を積み重ねてく仕組みになっているのです。」という一文です。

問二 A2 理由 置換

文章Bの——線部②のすぐ後に、「必ずしも覚えることが学ぶこととはかぎらない」ことの理由が書かれています。その部分を読みながらア～エの文の内容を検討します。アは「学ぶことそのことはそうしたあとからくつついてくるものとは別ものかもしれないから」という部分の言い換えにあたるので「○」です。イは覚えるための工夫について本文ではふれられていないため「×」です。ウは「覚えることは学ぶことの結果ではあっても」という部分とほぼ同じことを言っているので「○」です。エは、覚えることは学ぶことのアとについてくるという内容に合わないので「×」です。

問三 B2 理由 置換 比較 具体化

I については**文章A**の最後の段落に、人が勉強する、生きるため以外の理由について書かれています。人がものごとを知りたいと思うことは、学者が「知ること自体が大きい喜びだから」と考えることと同じだ、と述べているのです。字数を手がかりにして探してみるといいでしょう。

II については**文章B**の四～五段落目に学ぶことにつ

いて書かれています。まとめられているのは「このように、学ぶことは何か未知のもの、得体の知れないものに君が接してしまうこと、いや正確にはそれに触れられてしまうことなんだ。」という部分です。問いに十五字以上二十五字以内という指定があるので、重複する言葉や、言い換えている部分を削り、必要な部分だけをまとめるようにします。

※ **II** は以下のポイントを中心に見ます。

- ① 学ぶことがどういことなのかの説明されているか
- ② ①に過不足がないか
- ③ 表記や表現が正しいか

問四

C1 知識 理由 比較 類推 具体化

文章Aと**文章B**を読んで、自分は何のために勉強するのか、ということについて意見を記述する問題です。**文章A**と

文章Bに書かれていることを参考にしながら考えを組み立ててもかまいませんし、自分自身が考えることを書いてもかまいません。

自分が勉強する目的や夢があれば、それについて考えをまとめていくと書きやすいでしょう。また、宇宙についても知りたい、などの個人的な興味をもとにして書くこともできそうです。

書き始める前に、条件がすべて入っているかどうかを確認したり、書くべきことを短く箇条書きにして、それをもとにして書いたりするなどの工夫をしておくとな文が書きやすくなります。

※以下のポイントを中心に見ます。

第一段落について

- ① A 何のために勉強をしたかが書かれているか
① B 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか
① C 誤字・脱字・送り仮名、仮名遣いの誤りがないか
第二段落について
② A 第一段落で述べた意見の理由が書かれているか
② B 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか
② C 誤字・脱字・送り仮名、仮名遣いの誤りがないか
全体について
③ 段落が問題の指示に従って分けられているか
④ 答案用紙の使い方が正しいか
⑤ 字数制限が守られているか

理由を書く前に、問題に示されている
条件やきまりを確認しよう。



問2

B2 置換 比較 関係 具体化

想像力が、成長の過程にある子どもたちにとって欠かすことのできない要素であると筆者が考える理由は、——線部より後の部分に書かれています。想像力が子どもたちにとってどのような働きをするのかということについて、筆者は、「相手を心配する優しさ、手をさしのべようとする優しさ」が想像力から生まれると言っています。また、「大きな夢の入り口」や「未知の世界や知識を探究し吸収する学びの動力源にもなります」という働きが、具体的な例とともに書かれています。その部分を八十文字以上百字以内という字数に合わせてまとめるようにします。

※以下のポイントを中心に見ます。

- ① 想像力が、子どもたちにとって欠かすことのできない要素であると筆者が考える理由が書かれているか
- ② ①に過不足がないか
- ③ 表記や表現が正しいか

問2

C2 知識 理由 比較 類推 具体化

筆者は、国語という教科も道徳と同様に、厳密な意味での正解はないが、思いやり受け入れる心を持つと努力することに意味があると述べています。筆者の考えをまとめた上で、これからの学校生活で、他の人とのよい関係を保つためにどのようなことをしていきたいか、という考えを理由とともに書きます。第一段落に筆者の考えをまとめます。筆者は、線部より後の部分で、国語という教科と道徳とは、「考えて思いやったことが必ずしも正解じゃない」かもしれないことや、「そもそも厳

密な意味での正解自体がない」かもしれない点が同じだと考えています。しかし、「思いやり続ける」こと、「受け入れる心を持つと努力する」ことに意味があるとも述べています。この部分をまとめるとよいでしょう。

第二段落には、これからの学校生活で、他の人とのよい関係を保つためにどのようなことをしていきたいか、ということについてあなたの意見をまとめます。文章に書かれた内容を利用しながら自分の意見を組み立てる方法、自分で考えた内容をまとめる方法のいずれでもかまいません。できるだけわかりやすく自分の意見を書くようにしましょう。

第三段落には、第二段落で書いた意見の理由をまとめます。そのような意見になるのはなぜなのか、自分の言葉で説明するようにしましょう。

※以下のポイントを中心に見ます。

- 第一段落について
- ① A 国語という教科と道徳とはどのような点が同じで、そのことから私たちはどうするべきか、という筆者の考えが書かれているか
- ① B 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか
- ① C 誤字・脱字・送り仮名、仮名遣いの誤りがないか
- 第二段落について
- ② A これからの学校生活で、他の人とのよい関係を保つためにどのようなことをしていきたいか、ということについて自分の意見が書かれているか
- ② B 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか

②C 誤字・脱字・送り仮名、仮名遣いの誤りがないか
第三段落について

③A 第二段落で述べた意見の理由が書かれているか

③B 内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか

③C 誤字・脱字・送り仮名、仮名遣いの誤りがないか
全体について

④ 段落が問題の指示に従って分けられているか

⑤ 答案用紙の使い方が正しいか

⑥ 字数制限が守られている

解答用紙に書く前に文章の構成、伝えたいこと
などポイントとなることを確認しておこう。

